編集後記

「平和を考える小中学生作文集第三十三集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から三十点、中学生から六十九点、計九十九点の作品が寄せられました。小中学生ならではの視点で書かれた作品は、どの作品からも戦争の悲惨さや平和の尊さについて、真剣に向き合い、考えていることが伝わってきました。

授業をきっかけに戦争について考え、自分にできることは何かを考えた作品、戦争に関する資料や映像から感じた戦争の悲惨さを訴えた作品、戦争の話を聞き、その時の思いを伝えようとしている作品など、いずれも、小中学生の皆さんの平和に対する強い願いが込められたものばかりでした。

戦後七十七年が経ち、日本は戦争を知らない世代が大半を占めるようになりました。実際に戦争を経験していない子供たちにとって、戦争は命を奪う恐ろしいものだと理解している一方、どこか別世界で起きた信じられない出来事になってしまっていたことでしょう。

しかし、昨年の二月、ウクライナ侵攻が始まり、連日のニュースで心痛む惨状が取り上げられるようになりました。美しい街並みは荒れ果て、そこに暮らす多くの人々の命が失われていることを知る中で、子供たちは、改めて戦争は何一つ良いことはないと切実に感じているはずです。そして、戦争は昔の出来事ではなく、今も起こっている身近な問題として捉え直していることと思います。

未来に同じ失敗を繰り返さないためにも、これからの時代を担う小中学生が、平和について自分なりに考え、話し合うことや知り得たことを発信していくことは、大事なことだと考えます。ですから、この作文集を通して、沼津市の小中学生の皆さんが、世界の人々と本当の平和とは何か、共によく話し合い、未来へと希望をつないでくれることを願っています。

そして、沼津市が「核兵器廃絶平和都市宣言」で誓った、「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬくこと」について、責任の重さを受け止め、そのための努力を惜しまず続けていってほしいと思います。

最後に、この作文集を読んでくださった皆様方に心から感謝申し上げます。